

「隣」

—初稿—

2023/06/28

石川

〈人物表〉

林 一郎 (16) 市立東高校1年生

松井 みなみ (16) 市立東高校1年生

男子生徒 (16) 市立東高校1年生

その他

ログライン

みなみに恋する林は、バスでみなみと男子生徒の関係の始まりを見せつけられ、自転車通学するハメになる。

ねらい

みなみに対する林の、好きゆえの苦しみを楽しんでもらえる嬉しい。

1. バス停・丸尾駅（朝）

バスを待つ人々。先頭に女性。  
バスが来て、乗降口が開く。

2. バス・車内（朝）

車内に人は少ない。  
先程の女性が乗り込む。  
女性、車内に男性を見つけ、手を振る。  
男性も気付いて返事する。  
女性、歩いてきて当然のように男性の隣に座る。  
何やら会話。  
離れた席でそれを見ていた、林一郎（16）。

3. バス停・長原駅（朝）

同じ制服の高校生たちが乗り込んでくる。市立東高校である。  
林、興味ありげに乗降口を見る。  
そこには松井みなみ（16）の姿。小さなポニーテールの可愛らしい少女である。  
林、隣は空いているが窓側に寄りスペースをつくる。  
高校生、それぞれに座っていく。  
林、周りの席を見る。  
他に空いた席はない。  
みなみが来て、林の隣に座る。みなみは姿勢が良い。  
林、窓の外を見るも、チラリと横目。  
みなみは英単語帳を見ている。  
林、腕組みして寝たフリをとる。  
そのときバスが揺れ、みなみが寄りかかってくる。  
みなみ「すみません」  
林、寝たフリ。

4. バス停・市立東高校前（朝）

バスが着いて、ドアが開く。

5. バス・車内(朝)

林、まだ寝たフリをしている。  
続々と降りて行く生徒たち。  
降りる人の流れを見てみなみも席を立つ。  
林、後に続こうとするが流れに乗れず立ちつくす。

6. バス停・長原駅(朝)

座っている林。隣は空いている。  
市立東高校の生徒たちが乗り込んでくる。  
男子生徒も乗り込んできて林の斜め前の席に座る。  
背が高く、大きな部活バッグを持っている。  
林、乗車口を見る。  
みなみはまだ来ない。  
次々に埋まっていく座席。  
林の隣はまだ空いている。  
そのとき乗車口にみなみが現れる。  
窓側に詰める林。  
みなみ、乗り込んできて、一瞬立ち止まる。

林 「？」

みなみ、周りを気にして、林の斜め前の席、つまり部活カバンの男子生徒の隣に座る。  
一方、林の隣には坊主頭の生徒が座る。  
納得いかない様子の林。  
林、みなみが気になって見る。  
みなみ、体を丸めて俯いている。耳が赤い。  
坊主頭、ウトウトし林の肩に何度も頭を当てる。  
とうとう強く払いのける林。  
林、みなみを見る。  
俯いたままのみなみ、突然顔を上げ、隣の男子生徒に話しかける。

林 「！」

男子生徒、イヤホンを外し会話に応じる。  
みなみ、緊張しながらも積極的に話しかける。

林 「……」

男子生徒からも話題を振る。みなみは愛想良く返す。  
林、目つきが鋭くなる。

男子生徒に明るい表情が見られる。みなみも自然に話せている。初めより二人の顔が少し近づいたか。  
林、もうただ見ることしかできない。

× × ×

走るバス車内。

バスが揺れ、みなみが男子生徒に寄りかかる。  
すぐに離れるみなみ。焦った様子で取り繕い、俯く。  
男子生徒、みなみに声をかけるでもなく、窓の外に視線を外す。  
みなみと男子生徒の間にできた気まずい空間。  
林、ただ見ている。

## 7. バス停・市立東高校前（朝）

バスが着き、ドアが開く。

## 8. バス・車内（朝）

林、背もたれにズルズルと、いじけたような姿勢で  
みなみたちを見ている。

立ち上がり、ゾロゾロと降りる生徒たち。

林、人の流れでみなみたちの席が見えない。  
流れが過ぎ去る。

林 「！」

みなみと男子生徒、まだ降りていない。

林の隣の坊主頭が席を立つ。

バスに残ったのは、林、みなみ、男子生徒の三名。

林、みなみを見る。

みなみ、また俯き、なかなか席を離れようとし  
少し照れくさい様子の男子生徒。

林、気になって席を立つことができない。  
間。

運転手の声 「発車しますよ」

それでも動かないみなみ。

男子生徒、みなみを気にする。  
林、降りるかどうか決めきれない。  
みなみ「すいません、降ります」

と、席を立つと、男子生徒を促す。  
男子生徒も席を立ち、二人は足早に降車口へ向かう。  
林も急いで席を立つ。  
みなみは電子マネー、男子生徒はあらかじめ用意していた丁度の小銭を払って降りる。  
林は電子マネーで払って降りる。

## 9. バス停・市立東高校前→正門（朝）

バスが発進する。  
正門へと続く道。登校してくる生徒も多い。  
林、二人の様子を後ろから観察する。  
会話がなく、少し離れてその場に立ちつくす二人。  
二人、どちらからともなく歩き出し、今度は男子生徒の方からみなみに話しかける。  
付いていく林。  
顔を合わさず話していた二人だが、だんだんと相手の目を見て話すようになる。

林 「……」

二人の距離は自然と近くなっている。

## 10. 市立東高校・校舎（朝）

林の前を歩くみなみと男子生徒。男子生徒の隣にはみなみである。  
教室前まで来たところで、男子生徒短く別れの挨拶。  
みなみ、静かだが明るく答える。  
男子生徒、教室に消えていく。  
みなみ、自分の教室へ。遅れて林もみなみと同じ教室へ入る。

## 11. 林家・玄関外（朝）

よく晴れた日。

制服姿の林、自転車にまたがりキコキコ漕いでいく。

(終)